

「雨水の活用」

(株)ソフトポリス会長 杉本 久

都会のマンションに住んでいる人は、なかなか実行出来ないかも知れないが、私みたいに都会の喧騒から離れて、週末を自宅で過ごしていると、庭木や植木鉢に水をやったりして、脳をぼんやりとさせている。ところがこの植木への「水やり」は、意外と大量な水を使う。そこで私が考えたのが、雨水の活用である。

古くなったバスタブを捨てようとした時に活用を思いつき、雨樋を途中からぶった切り、雨水をバスタブに誘導した。屋根に落ちる雨水は、その表面積が大きいので、面白いように雨水が溜まる。雨が待ち遠しい。その水を汲み出して植木や鉢に散水する。

田んぼの泥水をかき出す様なポンプがあるので、それを買ってきてホースの先に如雨露を付けると、効率がすこぶるよい。

降り始めの雨は屋根上のごみをさらってきて、バスタブの底を汚すので、時々、バスタブの詮を抜いて掃除する。ボウフラが湧いて蚊が発生するので、普段はフタをしておく。最近では中に金魚を数匹入れて、彼らにボウフラ駆除をお願いしている。

雨水活用1号器は、今から20年前に設置したが、今はオーバーフローした水を、隣の大きなポリ容器に誘導し、更にとりの甕に誘導している。ポリ容器はホームセンターで売っている。現在は、2号器、3号器と我が家の周りに増えてきた。

ネットで「雨水 活用」と検索キーワードを打ち込んで調べたら、驚いたことにそんな専用タンクが売っているじゃないか。都心のマンションでもできるかも知れないぞ。海外でも雨水活用は盛んだが、日本でもNPOなどが雨水の利用宣言までしている。

雨水利用東京宣言

雨水は気候や風土、地域の特性はあるものの、だれもが平等に手に入れることができる資源です。

そして雨は地球の中を循環しながらすべての生命を支えています。日本には世界の年間平均降水量の二倍近い雨が降ります。しかもおよそ四日に一度は雨が降ります。世界の中でこんなに雨に恵まれた国はありません。私たちは、1994年の雨水利用東京国際会議をきっかけに、世界の雨の文化を学びながら、もう一度このすばらしい日本の雨の文化を暮らしの原点から見直し、都市と雨の共生を目指します。

私たちは、雨水をもっと大切にしたい、もっと有効に利用したいという思いを込めてここに高らかに宣言します。

(杉本雨水1号器)

(杉本雨水2号器)

(杉本雨水3号器)

右から左へ雨水は流れる。金魚もそれぞれの容器の中で活躍している。

